弘法山古墳講演会　松本市勤労者福祉センター
2020-12-12（土）
NPO 法人古代邇波の里・文化遺産ネットワーク　理事長
名古屋経済大学　特任教授　　赤塚次郎

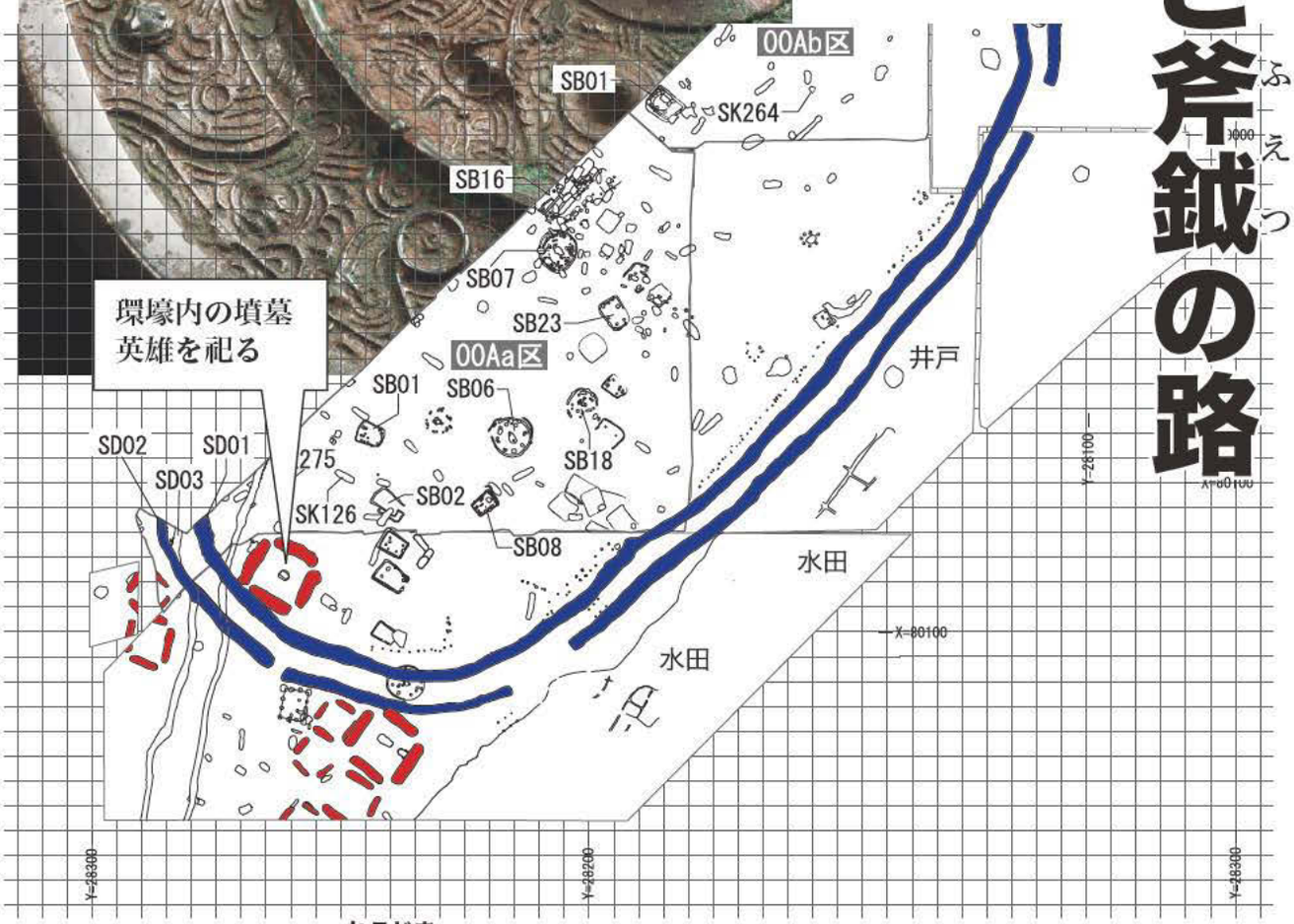
NiwaSato.net

東日本の３世紀古墳

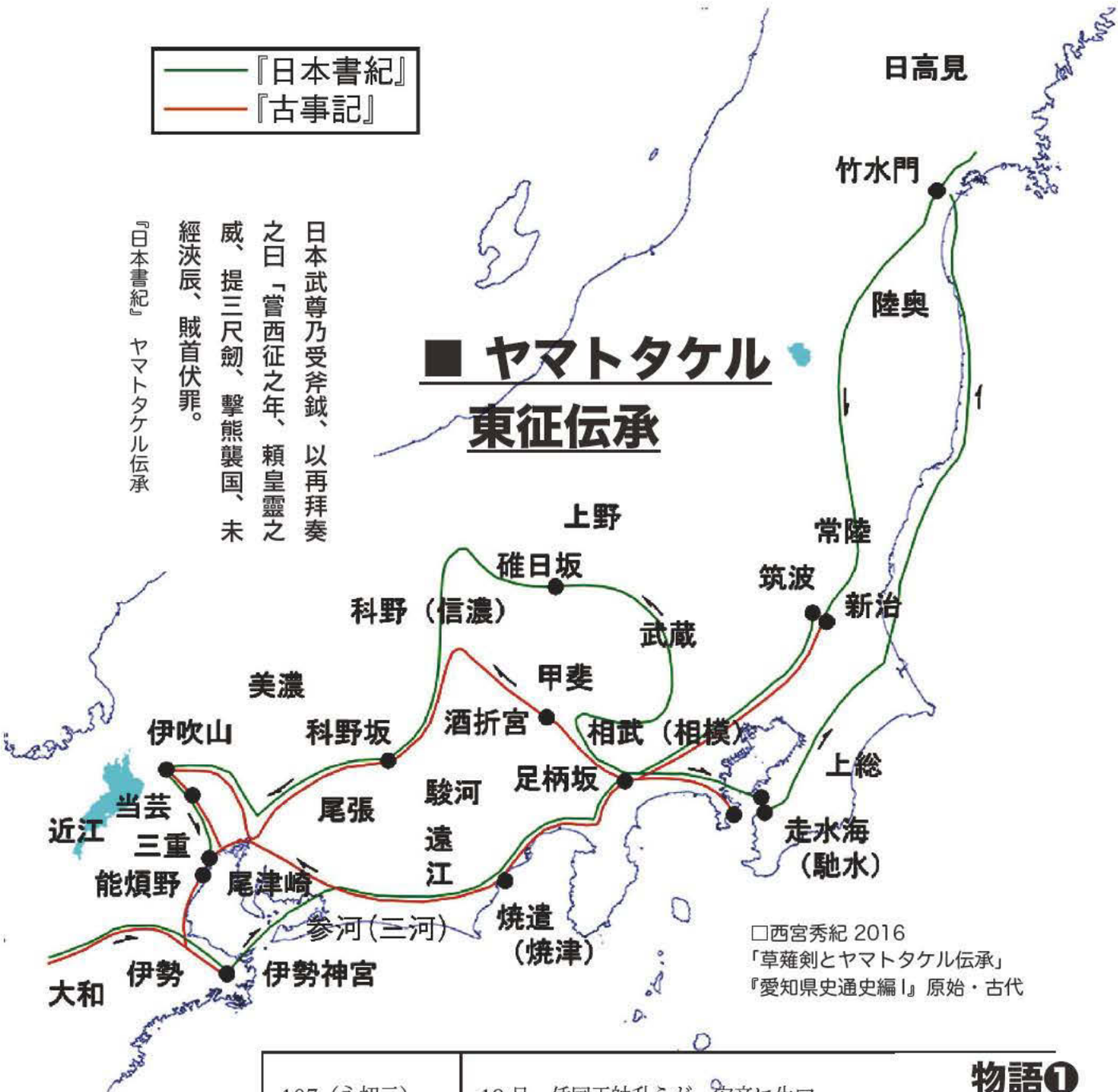
弘法山古墳と斧鉞（ふえつ）の路

何らかのミッションを成し遂げた
英雄が眠る場所
伝説が生み出される空域

東之宮古墳
人物禽獣文鏡（じんぶつきんじゅうもん）　B 鏡
（報告書より）



愛知県一宮市　猫島（ねこじま）遺跡（弥生中期後半期の集落）

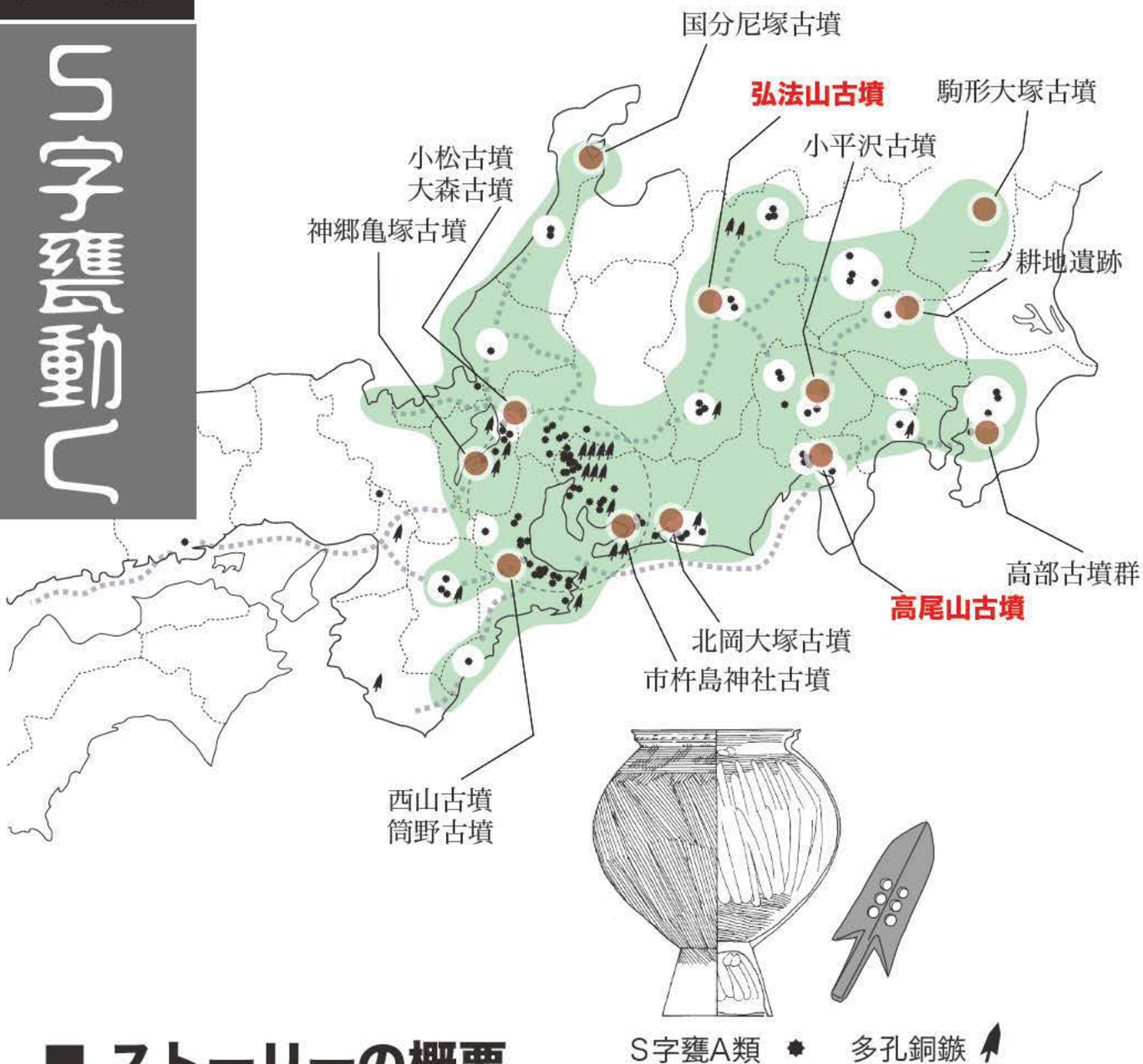


倭国大乱
卑弥呼登場

107（永初元）	10月、倭国王帥升らが、安帝に生口160人を献じる（後漢書　倭伝）	← **物語❶ 大洪水**
178～183	倭國が乱れ，歴年相攻伐する（『梁書』倭伝・『北史』倭国伝）	← **物語❷ 東海系 第1派**
239（景初3）	6月、倭の女王、難升米らを帯方郡へ派遣 帯方郡の太守「劉夏」が魏に案内 12月、倭の女王に「親魏倭王」の金印紫綬を与える 難升米・都市牛利に銅鏡100枚などを携え送還	
240（正始元）	帯方郡の太守「弓遵」が弟儁らを派遣 倭王に紹書・印綬をもたらす	
243（正始6）	魏、帯方郡から難升米に黄幢を授ける	← **物語❸ 東海系 第2派 倭王権誕生**
247（正始8） **狗奴国抗争!!!** **卑弥呼！死亡**	倭の女王、載使烏越等を帯方郡へ派遣 狗奴国との交戦を報告 **（狗奴国との抗争）** 帯方郡の太守「王頎」張政を派遣し、詔書・黄幢を倭に届ける	

第1話 S字甕動く

S 字甕 A 類分布
初期前方後方墳の分布
東海系第１派の動向（３世紀前）



S字甕A類 ✸　多孔銅鏃

■ ストーリーの概要

物語❶：「倭国王帥升」が登場する２世紀前葉，地域型墳丘墓が盛行し，それぞれ独自に王墓が大型化する時代と重なる。また「弥生後期」社会最後の環濠集落という景観が大きく崩れていく。

弥生社会の崩壊　**127 年**の激変・長周期変動へ

その後の２世紀後半期には地域型墳丘墓の大型化は鳴りを潜め，縮小する傾向すら見られる。

つまり王墓や地域社会の墓が連続かつ肥大化する傾向は読み取れない。断絶？

物語❷：西暦 **190 年**前後になると「土器様式の拡散現象」が見られる。

その中心は「大阪湾沿岸部」と「伊勢湾沿岸部」である点は動かない。

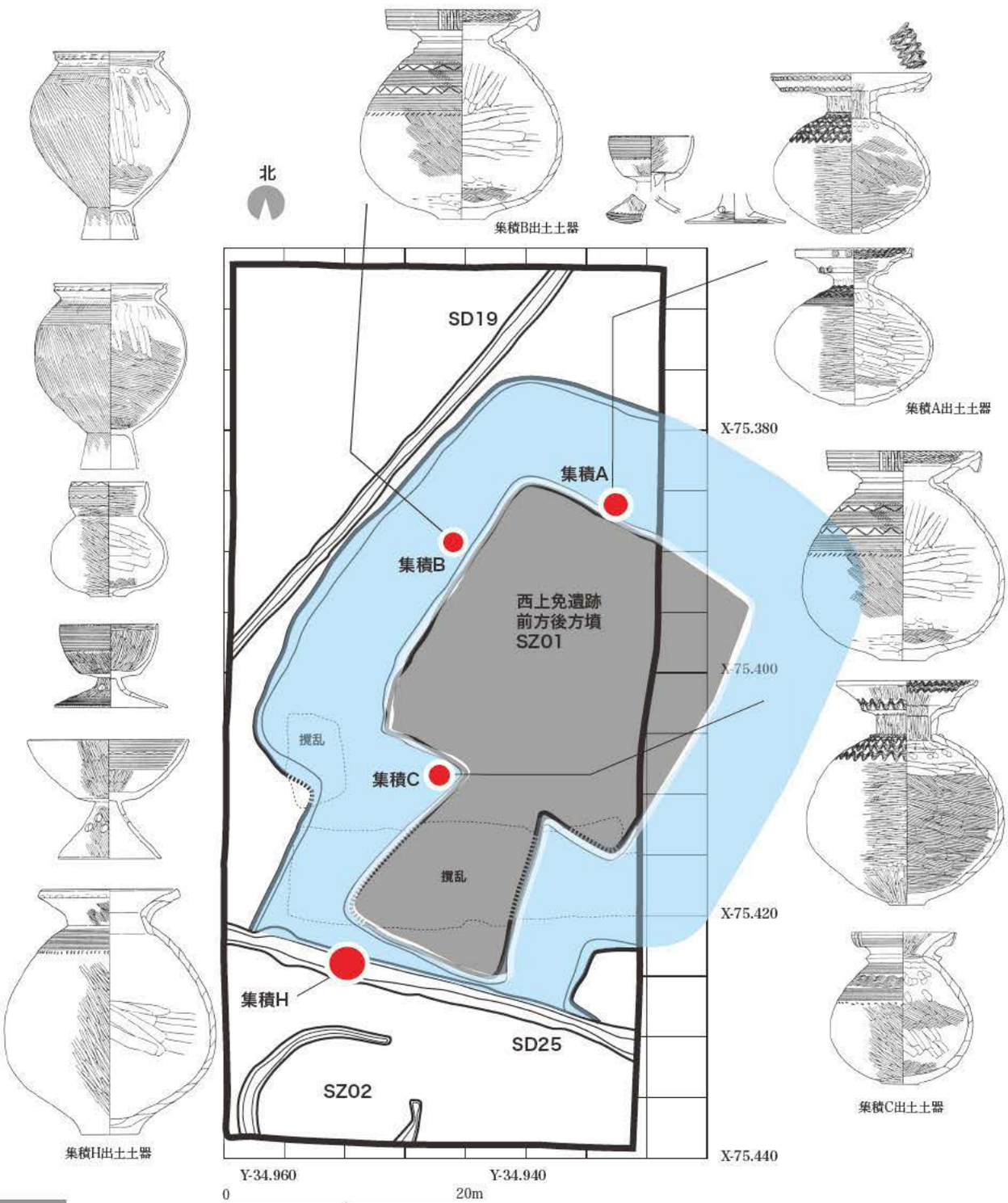
それを邪馬台国と狗奴国という『魏志』倭人伝が伝える出来事性に重ねることも可能。

物語❸：狗奴国との抗争（247 年）を経て『倭王権』誕生へ

愛知県一宮市　西上免遺跡
西上免古墳（前方後方墳）40.5m

廻間Ⅰ式４段階（H 地点）～
廻間Ⅱ式１段階（A/B/C 地点）

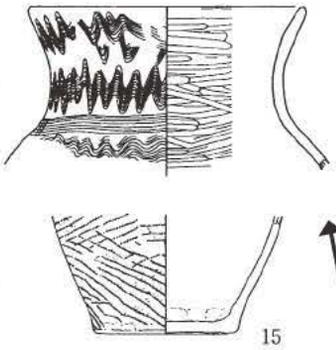
* 一般集落の共同墓地にも「前方後方墳」が造営される。
** 主体部は削平されて不明だが,
　主軸に直行すると仮定すると「冬至軸」をもつ可能性



190年 第2話

箱清水式

十王台式



小森遺跡出土
『愛知県史資料編３』

愛知県岩倉市
大地遺跡群（小森遺跡）

八草峠・北近畿路

揖斐川
根尾川
城之内遺跡
木曽川
梅林小学校遺跡
岐阜
長良川
古市場遺跡群
上加納銅鐸
犬山
荒尾南遺跡
余野遺跡群
大垣
十六銅鐸
西上免遺跡
二宮銅鐸
市場銅鐸
外山銅鐸
萩原遺跡群
内津峠
原東山道
一宮
八王子銅鐸
大地遺跡群
神領銅鐸
味蜂間の海
朝日銅鐸
廻間
朝日
庄内川
西志賀遺跡
蜂須賀遺跡
名古屋城濠/銅鐸
名古屋
津島
寺野遺跡
高蔵遺跡
中根銅鐸
見晴台遺跡
鳴海海底銅鐸
伊勢の海

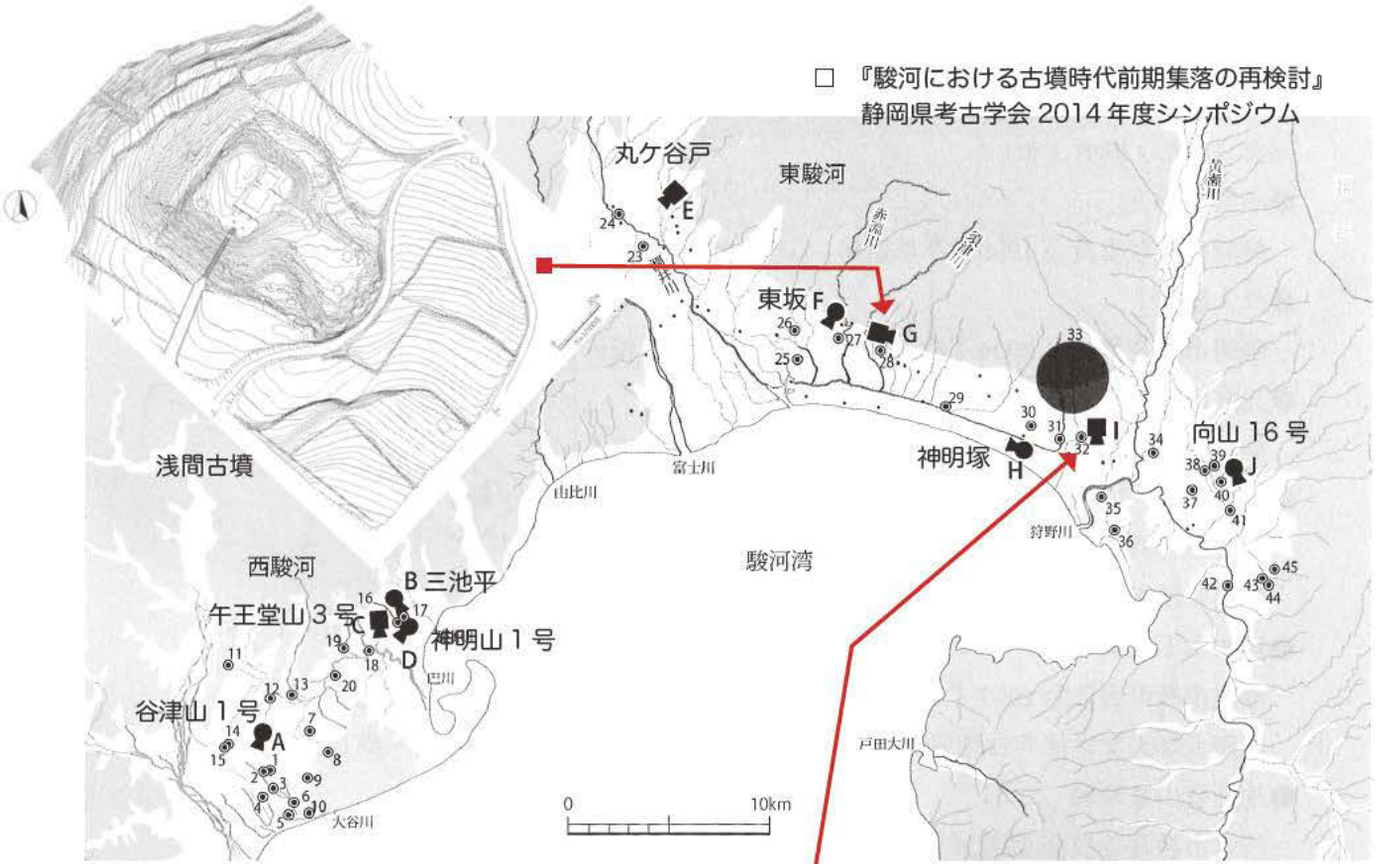
東の国々へのメインルート

外縁付紐・扁平紐式の銅鐸
突線紐式の銅鐸
遺跡
3～4世紀前半期の古墳

雲出川
ヤマト路

濃尾平野の集落・古墳分布（古墳早期を中心として）

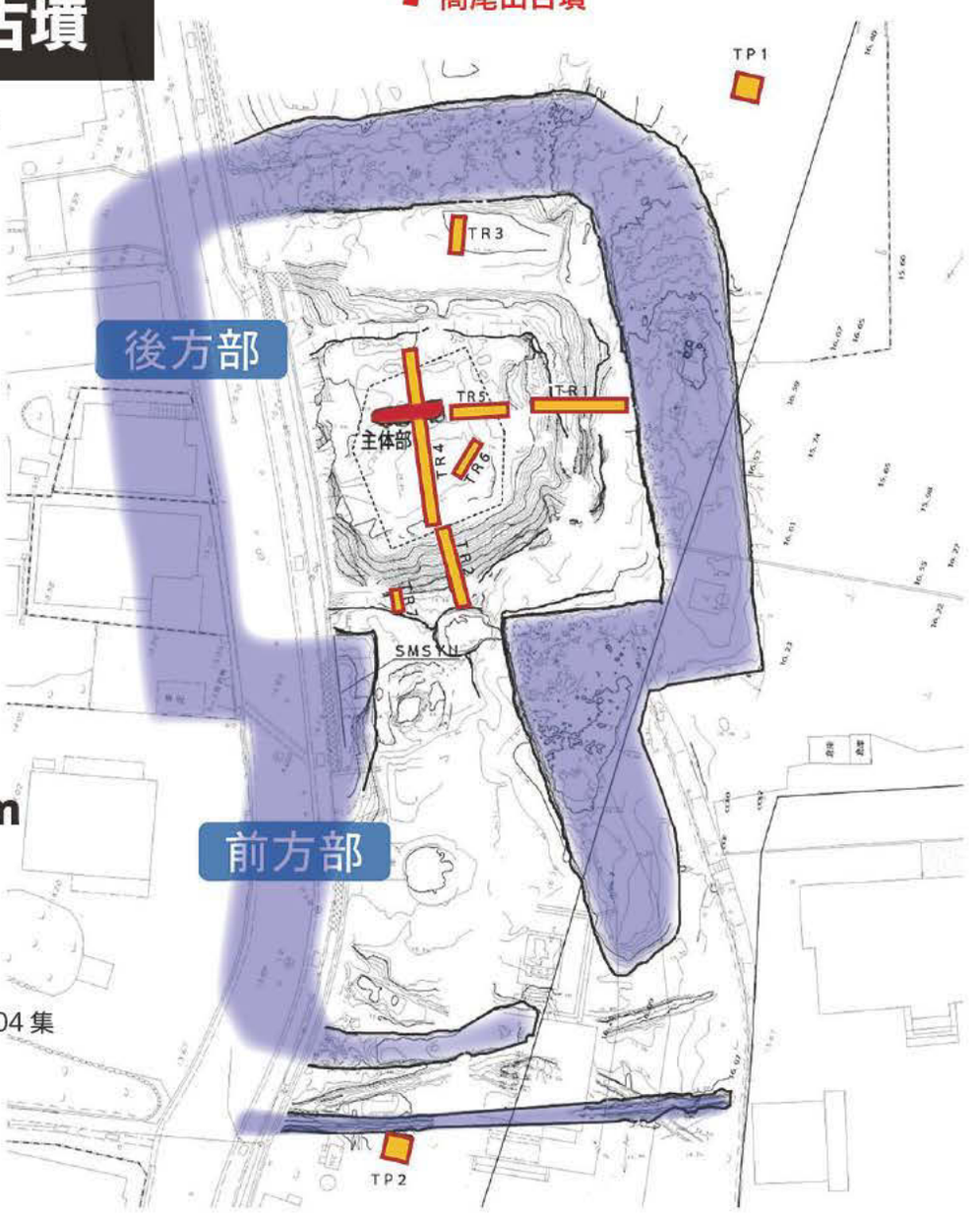
□ 『駿河における古墳時代前期集落の再検討』
静岡県考古学会 2014 年度シンポジウム



高尾山古墳

高尾山古墳

地域を起こす「英雄」



静岡県沼津市
前方後方墳　62m

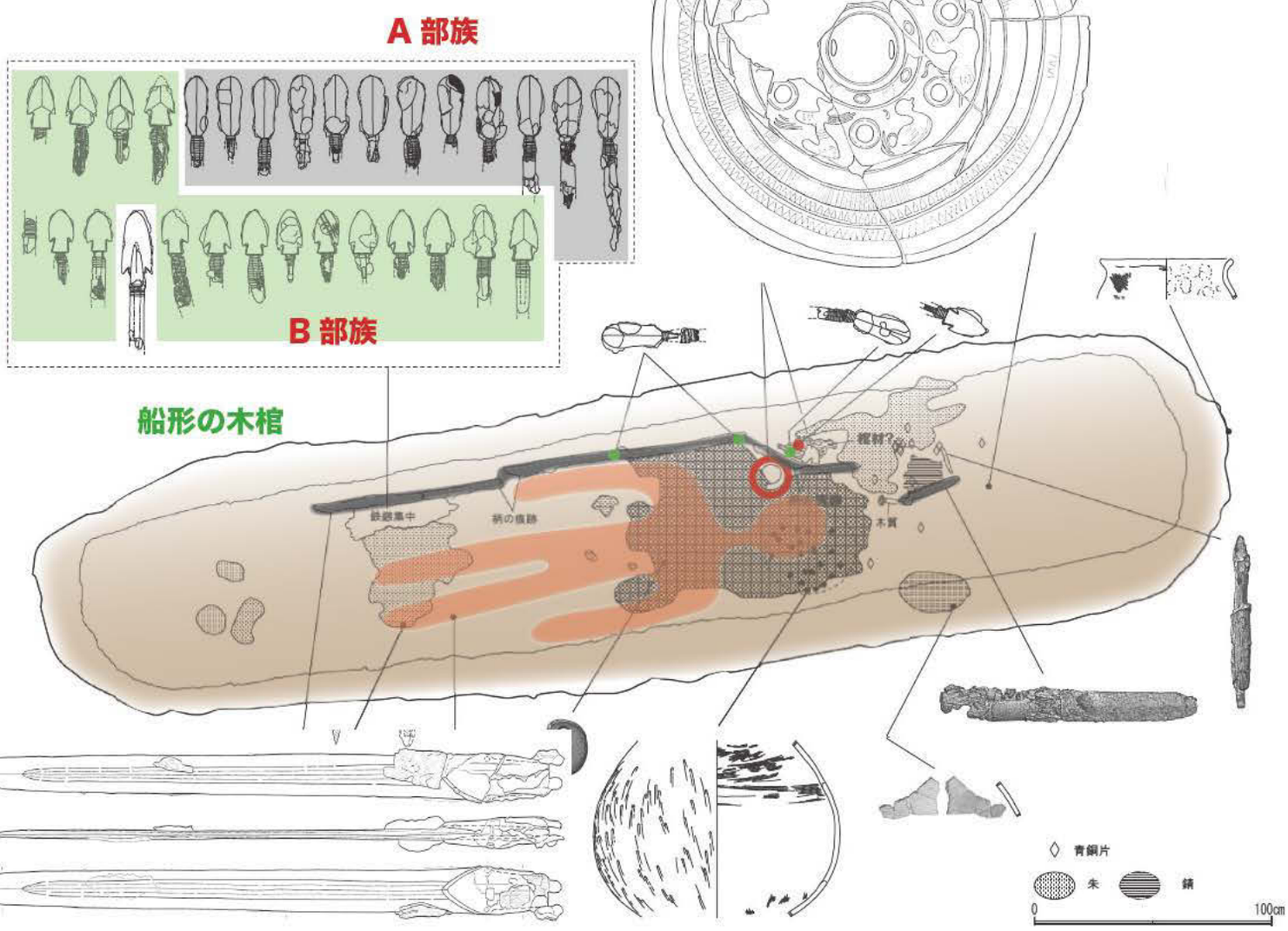
□池谷信之編 2012
『高尾山古墳発掘調査報告書』
沼津市文化財調査報告書 第 104 集

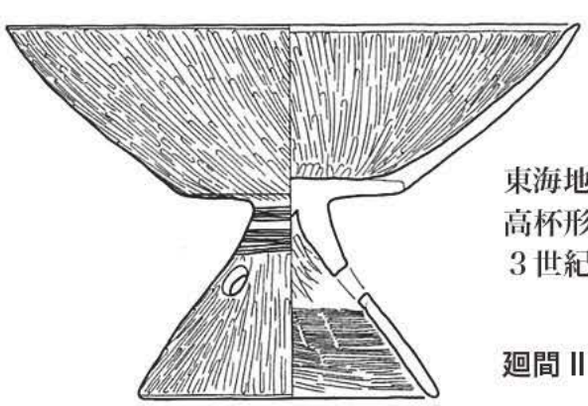
3世紀古墳 第3話

1) 駿河国駿河郡駿河郷，スルガ国のはじまり

2) ヤリの王，山と海の「2つの部族」を繋ぐ
愛鷹（モモ沢）の神を奉る
斧鉞を持たない：特定のミッションを掲げず

上方作系浮彫式獣帯鏡
（中国鏡・破砕鏡）
2世紀後半





王が眠る「舟形木棺」□ 高尾山古墳報告書より
東枕 長さ 5.05m 幅 1.25m

東海地域のデザイン
高杯形の土器
3世紀第1四半期

廻間Ⅱ式2段階

弘法山古墳

□斎藤忠編 1978『弘法山古墳』

前方後方墳（長野県松本市）

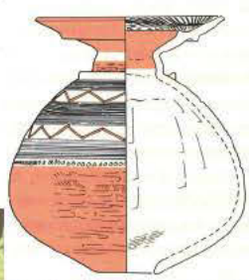
標高 652 m の尾根上
墳丘長 66 m・後方部幅 47 m・前方部幅 22 m
後方部の高さ 7.15 m・前方部の高さ 23.5m

埋葬施設（5.5 m×1.32m）
上方作系鏡浮彫式獣帯鏡 1 面
銅鏃 1・鉄鏃 24
鉄剣 3・ヤリガンナ 1
鉄斧 1
ガラス小玉 700 点以上

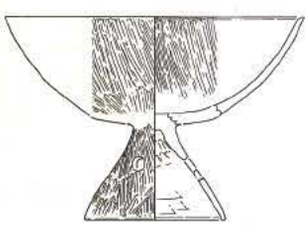
□松本市教育委員会「史跡弘法山古墳」

廻間Ⅱ式２段階

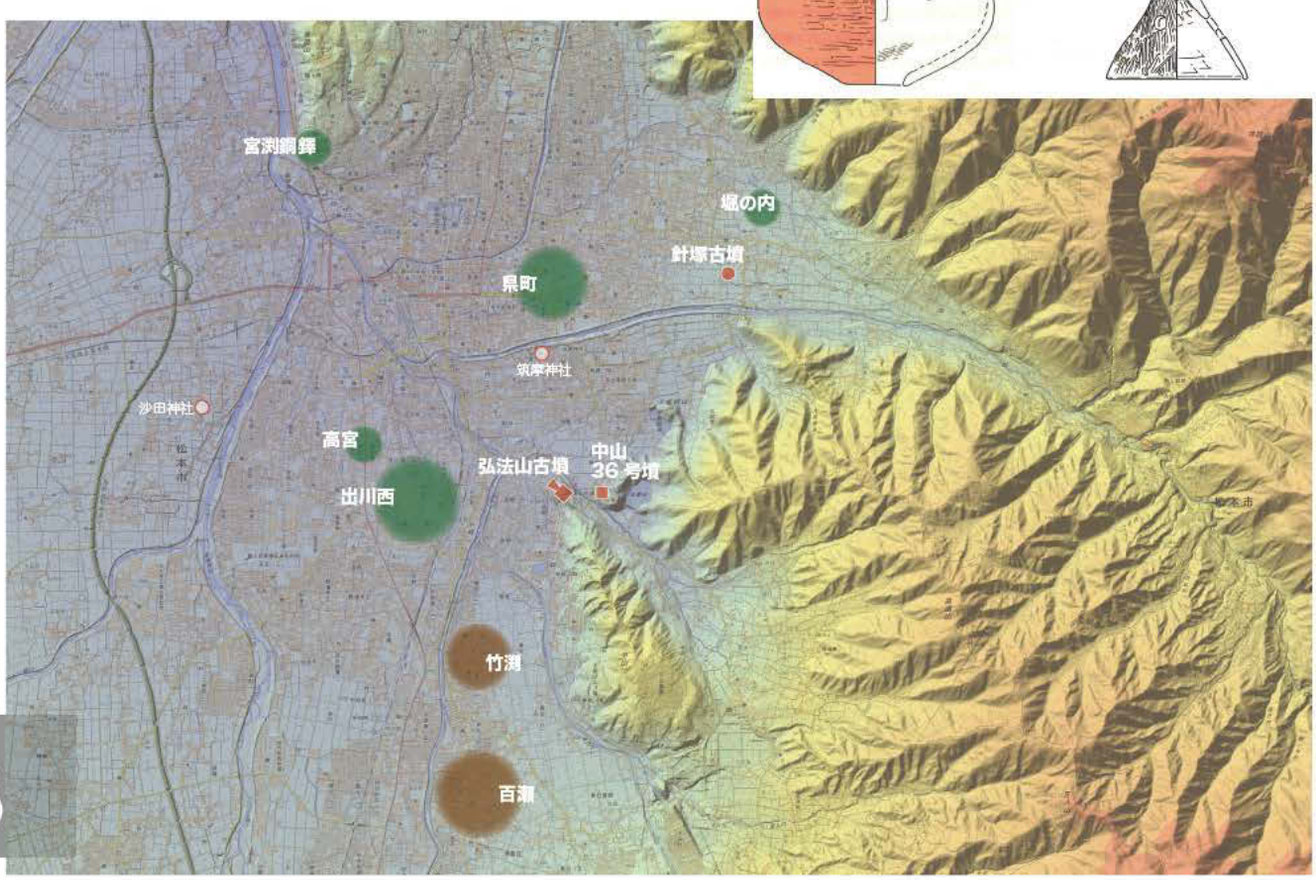
東海系土器（３世紀第１四半期）
パレス壺



高杯

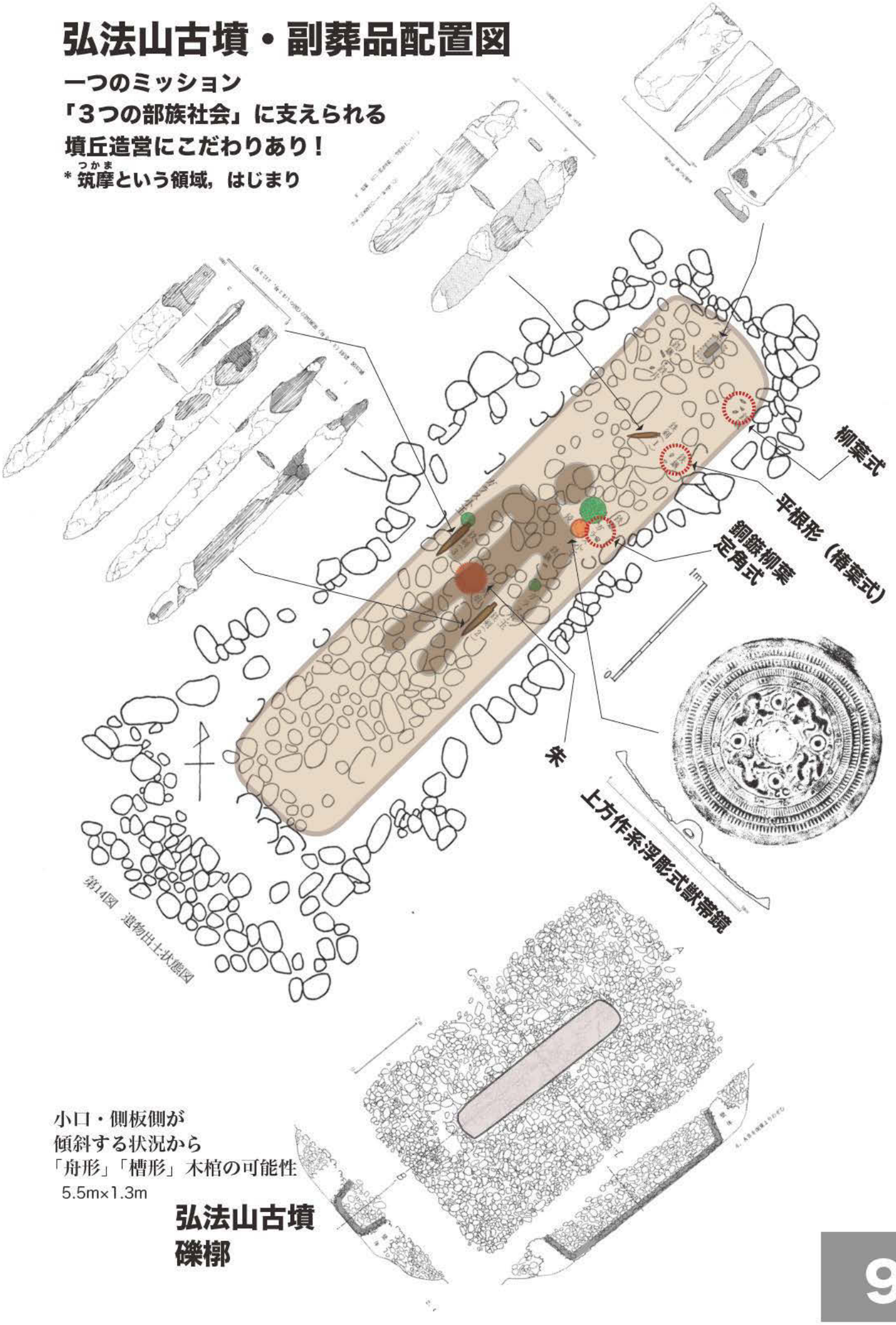


弘法山古墳と「出川」遺跡群



弘法山古墳・副葬品配置図

一つのミッション
「3つの部族社会」に支えられる
墳丘造営にこだわりあり！
＊筑摩（つかま）という領域，はじまり



小口・側板側が
傾斜する状況から
「舟形」「槽形」木棺の可能性
5.5m×1.3m

弘法山古墳
礫槨

東之宮古墳

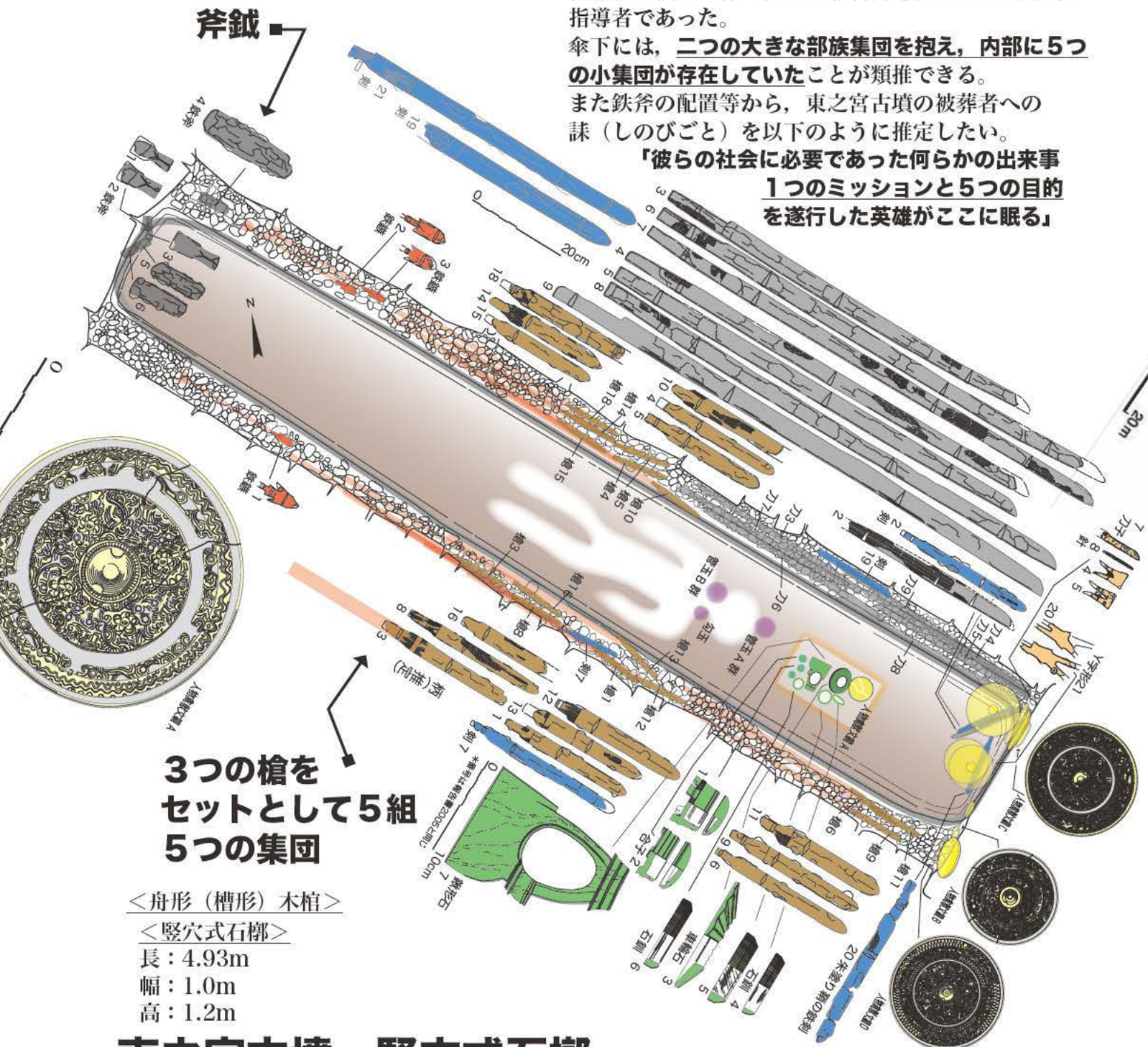
東之宮古墳に眠る人物

この地域の伝統的な特産物を背景に，すぐれた工芸技術集団を把握し，犬山扇状地から可児盆地にいたる古代邇波（にわ）の領域全体に多大な影響力を及ぼした先進的な指導者であった。

傘下には，**二つの大きな部族集団を抱え，内部に5つの小集団が存在していた**ことが類推できる。

また鉄斧の配置等から，東之宮古墳の被葬者への誄（しのびごと）を以下のように推定したい。

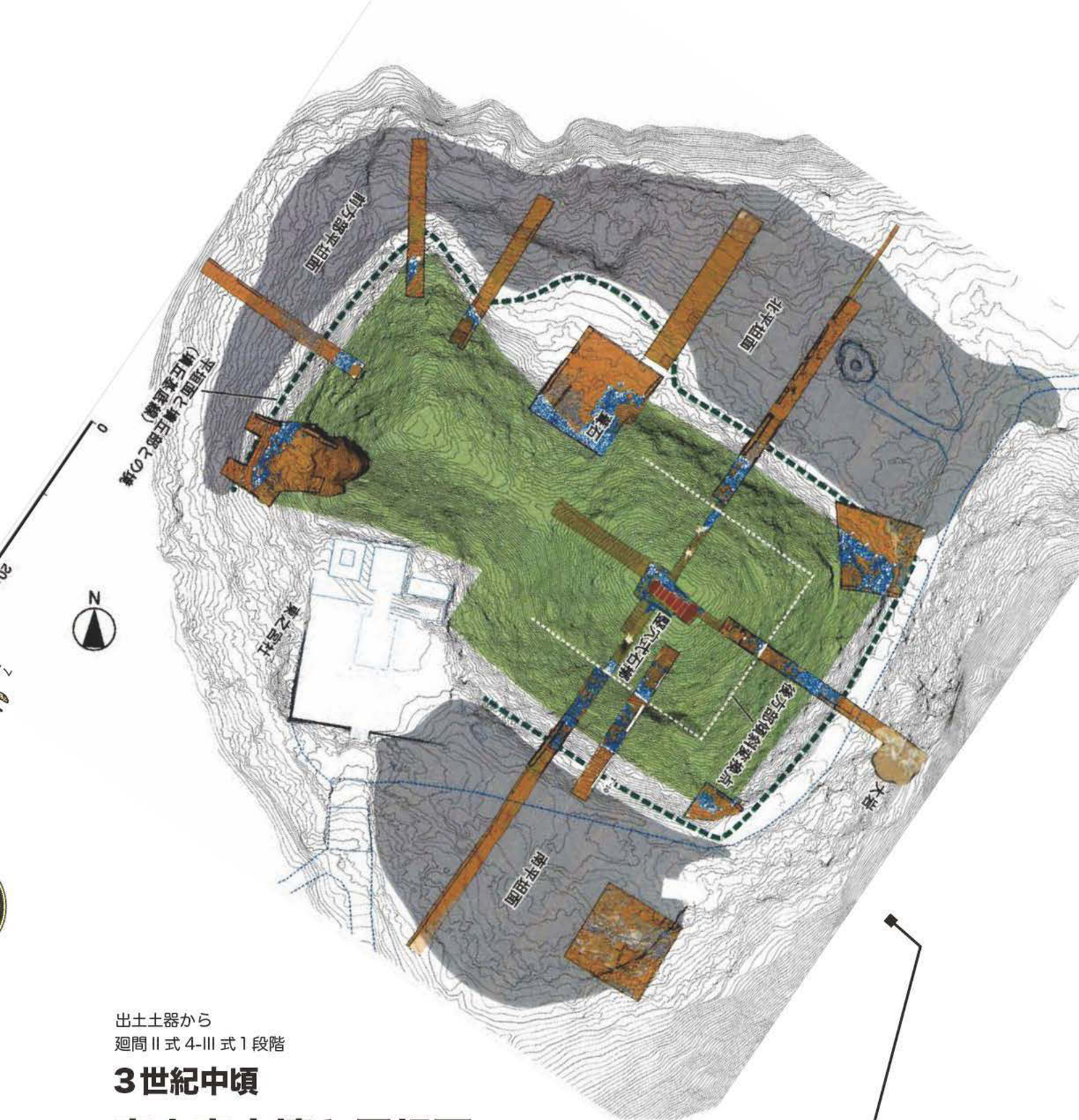
「彼らの社会に必要であった何らかの出来事
1つのミッションと5つの目的
を遂行した英雄がここに眠る」



東之宮古墳　竪穴式石槨

＜副葬品＞219点
鏡 11
玉類 141（勾玉・管玉）
石製品 7
鉄製品 60
（Y字形・鉄鏃・鉄刀・鉄剣・鉄槍・鉄斧・刀子・針・鑿・鉇など）

前方後方墳　72m（基底石での長さは67m）
標高145mの白山平山頂
基底石標高（133.2-135.3m）
後方部　48m×49m（基底石39×36m）
高さ約9m
前方部　長さ24m・幅約43m
（基底石長さ28m・幅35m）高さ約7m



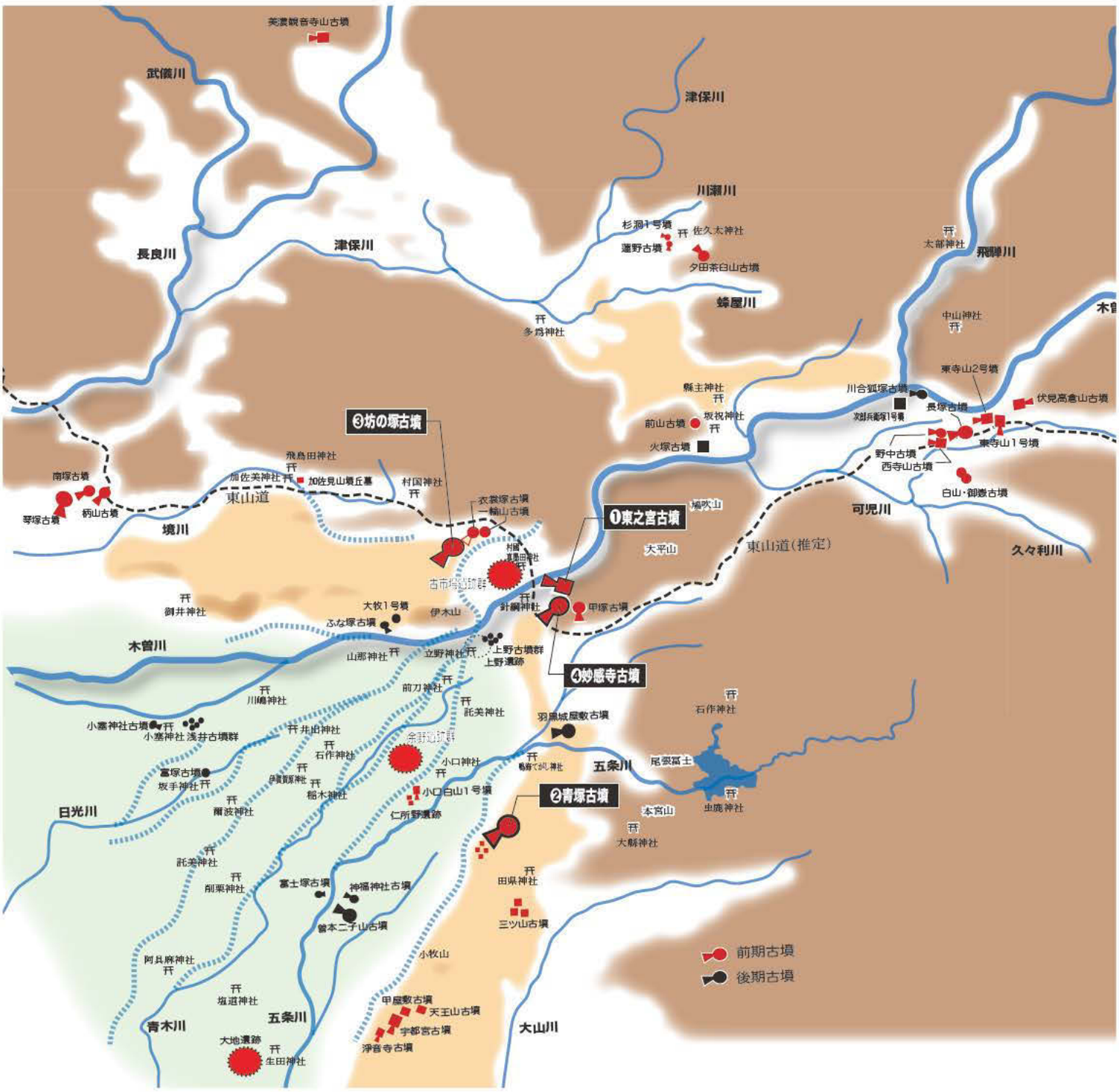
出土土器から
廻間Ⅱ式4-Ⅲ式1段階

3世紀中頃

東之宮古墳と平坦面

白山平というチャートの岩山には本来，山頂部分にわずかな礫質堆積層が存在した。そして古墳が造られた時，山頂部に存在した礫質堆積層を削り，あるいはさらに基盤のチャートそのものを砕き平坦化し，山頂全体に幅広い平坦面を作り上げる。
調査成果からは墳丘の盛り土は，当時の地表面を利用せず，全て削り造成した上での礫質堆積層（あるいは一部盛り土）の上に構築されている。

山頂をリセット
土・石などを運び，
墓を,, 一から
つくり上げる！！



濃尾平野の第三極

「美濃」でも「尾張」でもない

「もう一つの社会」古代邇波（にわ）